

CT スキャン検査はいかがわしくない？

川口幸宏

胸部レントゲンの結果、いかがわしい、ちゃう、疑わしい、と先生がのたまう。いよいよきたか。

「で、もっと詳しく検査しましょう。いや、検査したいですね。輪切りしましょうか。」

「全く、病院って所は、来るたびに来るたびに、悪いところを見つけますねえ。」

「だって、ほら、それが商売ですからね。」

「何でそれで、人気ナンバーワンの仕事なのか、私には分からないですね。嫌われてこそナンボの仕事でしょう。」

「いや、患者さんから見ればそうでしょうけれどねえ。ぼくらに言わせれば、人の悪口を言うことほど、心地よいものはない、そういうところじゃないかな。」

「ああ、教師と一緒にだ。でも、教師は儲けが少ない。」

この先生は、ぼくとのお遊び会話に付き合ってください。なかなかなお人だ。で、「輪切り」・・・そう、CT スキャンで胸部をさらに詳しく調べるとのこと。

「あのですね、私は 10 月 16 日に手術を受けることになっています。CT スキャンの結果、手術が不要ということには・・・ならないでしょうねえ。」

「手術も必要、輪切りも必要。ひよっとしたらさらに手術も必要・・・じゃあ、9 月 11 日午後 2 時半に予約を入れておきますね。この日はこれだけで診察はありません。」

今日がその CT スキャン検査の日。検査に向けて心身の準備をしておくことは？何せ、はじめのことゆえ、前回の診察の際に「これをよく読んでおいてくださいね。」との女性の看護師ぼくらの世代では絶対に看護婦という呼称でなければならない方の、声は優しいが説明抜きというずぼらな態度で手渡された書類を、起床後すぐ読む。もうこれで 3 回目だ。ぼくって気が小さいねえ。ナニナニ・・・？

CT 検査を受けられる方へ

<CT 検査とは>

この検査は、今までの X 線検査と同様に、X 線を使用しますが、得られたデータを全てコンピューターで解析して、体の輪切り状の写真をとる検査法です。

なるほど～、先生が「輪切り」と言った語源はどこにあるのか。輪切りねえ、そういえば一昨夜のおかずはゴーヤチャンプルにしたけれど、ゴーヤを輪切りにして調理したら、弘美君が「このゴーヤ、穴が開いてるわ」と苦言を呈したっけ。それで昨夜半輪に切ったゴーヤ料理を出したけど、今度は「このゴーヤ、苦いっ!」。説明文を読みながら頭の中はこんなことで渦巻いている。ぼくの胴体の輪切り、半円切りじゃなくってよかったけれど、たとえ空想上といえども。

<ご注意>

そうそう、これをちゃんと押さえておかなきゃね。

まずは、「検査当日、食事は召し上がってお越してください。」の言葉で急に朝の空腹を覚えた。冷蔵庫に行き中を覗き込む。うーん……。今日の朝食は手軽に食パンにバターをぬって牛乳でいただくことにしましょ。お昼にうんと食べましょ、久しぶりに、ライス300グラムのチキン煮込みカレーがいいな（御茶ノ水のカレー屋が念頭に浮かぶ。ロック調の店構え、小さいけれど気に入っているのだ）。いつもは150グラムもライスを食べないのになあ。なんだか急にたくさんのお米を食べたくなった。

で、パンを口に頬張りながら次の項目。「常用している薬」。そのあとは読まなくていい。だって、薬、数日前になくなっちゃったんだもの。「アレルギーの方」。その後は読みたくなかった。文字をみただけで湿疹が出そうになるんだから。「検査時は、カツラ・ヘヤピン・入れ歯・イヤリングははずして下さい」あ、ぼくには全く無関係。無関係だけど、つい、訊ねてみたくなる。「あの～、首輪は大丈夫?」・・・食卓の向こう側で黙って座っていた夢さん、「犬、猫は首輪、人間はネックレス。どうして呼び方違うのでしょうか」。夢さんの蘊蓄は大変ためになることが多いが、今日は蘊蓄に付き合わないことにしました。

さあ、いよいよ、最後の一行だ。

「検査当日は、着服しやすい服装で来院してください。」

前に読んだときもその前に読んだときにも気になった一文だが、今日はさらに念には念

を入れて読んだ。どう読んでも「着服」とある。つい夢さんに声を掛けた。

「ねえ、病院に行くとき、裸でってこと？で、服は風呂敷かなんかに包んでさ。」

「お父さんは男だからいいかも……。やっぱり変態に見られるよ。」

「だよ。じゃあさ、上着なんか脱ぐんでしょ？脱衣所で……。<お風呂屋にでも行く気？>……で、その上着のポケットには財布を入れておきなさい、ってことかな？病院関係者が、検査の間にそっと脱衣所に来て、財布を抜き取ってしまう。」

「そういうのは、着服って言わないでしょ？」

「だよなー。」

それまで黙って会話を聞いていた弘美君が一言、「馬鹿言っていないで、そろそろ行きなさい。ちゃんと病院の人の指示に従うのよ。こんなところでへそまげても何の得もないから。」
んだす。とことこと二階の和室に上がり、箆笥から、着脱が容易な T シャツとノーベルトのズボンを引きずり出し、着込んだ。

着込んでいる間に、猫のハナちゃんが箆笥の袖に入って体を休めていた。

CT スキャンでは、機械音のおねーちゃん声がなにやら言っていたが聞き分けられなかったので無視して、早く終わらないかなーと、つぶやいていた。そしたら、顔の上にぬっと、ひげもじゃのおにーちゃんもどきの顔が現れて、思わず、フギャアツと言いかけた。機械じゃないおにーちゃんもどきの声が、ずぶとく、「声に合わせて息を止めてね、おじいちゃん」と言った。これ、彼 3 度目の挑戦で、ぼくに伝わったのね。もう一回やり直しなんだってさ。ぶつぶつ。で、また機械音の女声のあとひげもじゃの声。「声に合わせて息を止めてくださいっ。」今度は大きな声だったから一回でよかった。でもよー、おにーちゃんもどきの声は聞こえるようになったケンド、おねーちゃんの声は聞こえんぞなモシ。3 度目の挑戦。トホホホホ。3 度目は、機械声と生声がほぼ一緒に聞こえた。でぼくは、「息を止めて」に合わせて息を止めた。でも、「はい、結構です」の生声は聞こえなかったので、かなりの間苦しい思いを続けた。息を吸ってもよいんだと確信したときは、おにーちゃんもどきが、ぼくの手をとって起こしてくれた時だ。まさにふらふら、天井が回って見えた。

「ええっ！今まで息を止めてたのっ！」

「はい。死ぬかと思いました。」

「CT 検査を受けられる方へ」の注意書きに、「検査に要する時間は 15～20 分です。検査

中は、よい写真をとるために、身体を動かさないようにご協力下さい。」とある。ぼくが今日受けた検査には、つまり、「よい写真をとる」ための撮影時間はせいぜいのところー1回ですんだ場合のことだがー1分強程度。説明書と実際との時間の落差はまったく念頭にもなく、口頭での説明もなかった。レントゲンのように「はい、息を止めて」という合図があるなど、頭の片隅にも心の真ん中にも、どこにもなかった。

今度から、あらゆる検査に対して「私は未知の世界を今さまよっております」というプレートを首からぶら下げようかと、本気で考えている今である。「若葉マーク」では「未熟ながら経験あり」だものね、ぼくには当てはまらない。それをするには、ものすごい、決断力が必要だろう。でも、そうしないと、あっちの人には異邦人と思われかねない。

インフォームドコンセントは病院の末端神経にまで行き届くようにして貰いたい。